

<理事会・実行委員会合同企画>

●講演・シンポジウム【6月27日（土）14:25～17:25 札幌校講堂】

テーマ：家庭生活・地域の疲弊と家庭科の実践

基調講演：現代日本の貧困と教育・福祉の役割

青木 紀（北海道大学大学院教育学研究院教授）

シンポジウム

パネラー：松本伊智朗（札幌学院大学人文学部教授）

三浦きみ子（元北海道立奈井江商業高等学校家庭科教諭）

青木 紀（北海道大学大学院教育学研究院教授）

コーディネーター：増渕 哲子（北海道教育大学）

松田 淑子（福井大学）

趣旨：経済・雇用状況が急激に悪化するなかで、全国的に生活保護の受給者は増え続け、児童生徒数の減少とは裏腹に就学援助受給者が増加しています。就学援助者認定率の地域的な偏りも目立ち、教育の機会均等の原則は、いまやなし崩しになっていると言わざるを得ません。子育て期の家族の生活困難は一層深刻さを増しています。貧困が固定化し再生産される現状で、学校は、家庭科教育は何ができるのでしょうか。

青木紀さんの基調講演では、現代日本の貧困とその世代的再生産、また教育や福祉の「家族依存」の問題を読み解いていただきます。さらに松本伊智朗さんからは、子どもの貧困問題に焦点を絞って問題提起していただきます。その上で、三浦きみ子さんからは、産業構造の急激な変化により地域格差が拡大した北海道奈井江（空知郡）で、生活の安心を脅かすものを知り、その中でも家庭生活の現実を変えようと頑張っている人々の姿や生活保障の仕組みを伝えることで生徒たちにエールを送り、疲弊した社会の現実に向き合っていく知恵と勇気を学ぶ家庭科実践、「生活と人権」の授業について報告していただきます。

この講演とシンポジウムを通して、近年の家庭生活と地域の状況について議論を深め、子どもたちの発達を支え格差社会に抗する家庭科教育のあり方を探っていきたいと思います。